SS01-5　うま味刺激による唾液分泌反射を応用した味覚障害の治療について

◯笹野　高嗣[1]，佐藤　しづ子[1]，庄司　憲明[1]，河合　美佐子[2]，畝山　寿之[2]
[1]東北大院歯，[2]味の素ライフサイエンス研

美味しく味わって食べることは人生最大の喜びではないだろうか。しかしながら、我が国では急激な超高齢化に伴う高齢者の味覚異常患者が増加している。味覚異常は単にQOLを損ねるばかりでなく、食欲不振に伴う体重減少により健康状態を悪化させる要因となりかねない。６５歳以上の高齢者を対象とした我々の味覚調査では、約３７％に異常がみられた。味覚障害の原因は多岐に渡るが、味覚障害患者は障害の無い患者に比較して小唾液分泌量を含めた総唾液分泌量が有意に低下していること、また、唾液分泌量を増加させる内科的治療を行うことにより味覚障害が改善されることが明らかとなっている。すなわち、唾液分泌は健全な味覚機能の維持に重要な役割を果たしていると考えられる。唾液分泌量の低下すなわち口腔乾燥症に対する治療は薬物による内科的治療が主体であり、様々な治療薬がある。しかしながら、これらの治療薬の多くは副作用が強く、他の内服薬との相互作用などから服薬できない場合もある。我々は、味覚刺激による唾液分泌反射を利用し、唾液分泌機能を改善する治療法を試行している。味覚刺激のなかで、「うま味」刺激は酸味刺激と同等の唾液分泌反射能を有し、また、酸味刺激のような粘膜刺激性がないことから、味覚刺激としては「うま味」が有用と考えられる。現在、口腔乾燥症に伴う味覚障害を改善する安心安全な治療法として「うま味」刺激を用いた唾液分泌機能改善の治療法を目指しているところである。